

## 大学基準 1. 理念・目的

## 中期目標

【目標 1】 大学・学部・研究科等の理念・目的を、定期的に検証し適切に維持する。

【目標 2】 大学・学部・研究科の理念・目的を、大学構成員(教職員および学生)に周知し、社会に公表する。また、認知度を向上させる。

## (1) 大学評価委員会

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】	
[1-1] 大学の理念・目的に定める人材育成が、時代に適合し社会から高い評価を受けることができる内容であることを、指標に基づいて客観的に評価し、検証する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)	
2017 年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 3つの達成度評価指標に基づく評価を引き続き実施し集約すると共に、大学の理念・目的と学部・研究科の目的の関連性を改めて検証・確認する。	<b>計画実施状況</b> 3つの達成度評価指標の集約結果は昨年度同様の方法で算出し次の通り。①は卒業生の就職者全体に占める道内企業の割合を算出し、2016年度は69.9%。②、③は本学HPで広報された件数をカウント。2017年は②が31件、③が16件。 関連性の検証・確認については、当初「大学の理念・目的」と「学部・研究科の目的」を一覧化し、関連性の確認をする計画であったが、何をもって関連しているかという定義付けが難しく、結果的に実施できなかった。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 全体的に前年度までと同様の状況であり、①については微減、②と③については微増となっている。
2018 年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 3つの達成度評価指標に基づく評価を引き続き実施し集約する。また、昨年度未達であった「大学の理念・目的」と「学部・研究科の目的」の関連性について検証・確認する。		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度調査結果	
2017 年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 大学・学部・研究科の理念・目的の周知について、公表媒体及び内容の適切性を検証する。また、認知度調査について、学内で実施しているほかのアンケート調査と組み合わせる。	<b>計画実施状況</b> どのような媒体で理念・目的を公表しているか、また、それぞれの内容は適切かについて、3ポリシーも含めて検証し、不適切な掲載については改善を要請した。(第2回委員会報告3) 認知度調査については、IR委員会では実施している1、2年生アンケートに、理念・目的の認知度を確認する項目を追加して実施した。結果、1年生よりも2年生の認知度が低く、認知度調査の結果、本学の理念・目的を知っている割合は全体で約1/3であった。ガイダンス時の周知を要請することとした。(第2回委員会報告4)	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 全体的に認知度が低いため、更なる周知によって全体の底上げを図りたい。
2018 年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] リニューアルされたHPにおいて、大学・学部・研究科の理念・目的が適切に掲載されているかを検証する。また、昨年度同様の形式で、認知度に関するアンケート調査を実施する。		

## (2) 経営学部

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】	
[1-1] 現行の経営学部の目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)	
2017 年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 特に、実践的な知識を現実社会に応用していく能力が培われているかを評価する。	<b>計画実施状況</b> 社会の国際化に適応できる人材育成を教育目的に加えた。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 長期国際インターンシップを含む国際化プログラムを2018年度より導入する。
2018 年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 地域での実践、国際化の推進をより具体化していく。		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、経営学部では1年次から4年次まで少人数のゼミを開講しているので、その機会を利用するなど新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度調査結果	
2017 年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 教職員一人ひとりが、大学・学部の理念・目標を改めて認識することで、刊行物、ホームページ、ガイダンス、ゼミを通じた理念・目的の周知を徹底する。	<b>計画実施状況</b> 学部の理念、目標を学内に周知するとともに、教員採用プロセスにおいても、候補者にこれらへの理解を求めた。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 検証方法が策定には至らなかったが、周知するための機会を増やすよう努めた。
2018 年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 地域での実践、国際化がより広くメディアに取り上げられるよう、活発な広報活動を展開する。		

1. 理念・目的

(3) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 現行の経済学部理念・目的と教育・研究活動の成果との関連性について検証し、評価する。			①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) (他校とのセミナー開催・参加あるいはインターンシップ活動への参加について統計データを用いる) ③学内の諸活動参加状況(協働) (入学式や卒業式やその他の行事での学生からの援助などの統計を用いる)
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを引き続き検証する。	「自律」に関しては、進路決定状況を毎月報告し、確認した。「人権」、「共生」については、他大学とのセミナー参加・報告、インターンシップへの参加を促す、ゼミIで合同ゼミを開催するなどして、体現することに努めた。「協働」については、入学ガイダンスの際に学生サポートを呼びかけるなどをした。これらの方法を議論したものの、本学の人材育成の目的が適切に機能していることは完全には検証できていない。	現行の経済学部理念・目的に従い、教育・研究活動を行ってきたが、今後も関連性については具体的に検証していく。
2018年度	年次計画内容	[1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを引き続き検証する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 大学の刊行物、経済学部のホームページ、ガイダンス、保護者懇談会、高校訪問などの機会を通じて、多様な方法で理念や目的を周知し、その認知度を高める。さらに、各方法の効果を検証し、必要があれば新たな周知方法も検討する。			①ホームページへのアクセス数 ②大学の広報室の活動から得られる情報 ③高校訪問、保護者懇談会などの生の情報
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 大学・学部の理念・目的について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を維持させる。	学部ガイダンスやオープンキャンパス、保護者懇談会にて説明し、周知を図った。	昨年度以上に認知度を高めるよう継続して努めた。またオープンキャンパス、保護者懇談会におけるアンケートを確認して効果を検証したが、新たな周知方法は現段階では必要ない。
2018年度	年次計画内容	[2-1] 大学・学部の理念・目的について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を維持させる。	

(4) 人文学部共通

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 大学の理念・目的および人文学部の目的と、各学科における教育・研究活動の成果との関連性について評価する。			進路決定状況
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 16年度、学生・受験生に向けた「自校教育」(本学の理念、歴史の紹介)が展開されたが、教員においても本学の理念を改めて熟知し、これに基づいた教育内容・出口(進路・就職)の検証を学部レベルで行なう。	自校教育については、入学式をはじめ諸行事の中で理事・学部長等が学生に本学の歴史や理念を紹介してきた。これを継続する。教員においては担任による基礎ゼミ等で紹介するなどが望まれる。教育内容の検証については進路・就職面からその結果については把握してきた。しかし問題点の抽出にまでは至らなかった。	学部再編計画に伴ってカリキュラムの見直しが必要となる。その過程で教育内容の検証が必要とされる。各学科の3つのポリシー等の確認あるいは見直しの際に大学・学部の理念に基づいた教育を明確にする必要が求められる。
2018年度	年次計画内容	[1-1] 大学・学部の理念・目的が学部学科のカリキュラムや科目編成において、どの程度、具体化されているかを検証する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 人文学部教員ならびに関係職員が、大学・学部の理念・目的を理解し、その教育・研究活動との関連性について検証する。 [2-2] 学生や社会に対し、刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			[2-1,2-2 共通] 理念・目的の認知度調査結果
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育・研究活動の一層の可視化をはかるため、教授会で共有する情報を適宜増やして行く。	教授会で特任教員を含めた学部構成員の教育・研究活動は適宜紹介されている。今後もこれを続ける。	引き続き学部の教育・研究活動の可視化に務め、大学全体のホームページに積極的に公開することができるよう各学科で情報を随時アップする体制を今後整える。 【指標なし】

	[2-2] 学部の教育内容を構成員が把握・周知し、これを入試・広報に資するべく高・大接続へと展開する方策を検討する。	多彩な教育活動は学部運営会議では把握できているが、教授会構成員及び特任教員にまで十分に伝わらなかった。高・大接続についても具体的な方針等は策定できなかったため継続課題とする。	各学科による高校等との連携の公表については教授会で共有し、今後広報強化の素材として各学科入試委員に提供できるよう務める。 【指標なし】
2018年度	年次計画内容		
	[2-1] 大学・学部の理念・目的を念頭においた教育・研究活動を一層、活発にするよう努力する。		
	[2-2] さまざまな大学・学部行事において、大学・学部の理念・目的の周知徹底をはかるとともに、社会に対して情報配信する。		

## (5) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 毎年履修要項の改正時期にあわせて、学科の理念・目的及び「人間科学科教育のめざすもの」を学科会議等において確認・検証する。		履修要項
2017年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。	[1-1] 新年度の履修要項の作成にあたっては、そのつど学科会議・教務委員会で検討・確認した。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		検討の結果、適切に維持できていると判断できる。従って、来年度以降もこの体制を継続する。【指標：履修要項】
2018年度	年次計画内容	
	[1-1] 新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		・種々の刊行物 ・ホームページのコンテンツおよびアクセス状況データ
2017年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 学科パンフレットの編集発行、および、新サーバーへの移行に伴う学部及び学科ホームページの再構築をとおして、学科の理念・目的の周知方法について学科会議で検討・確認する。	学科パンフレットを1回発行した。学科ホームページ(ブログ)は、年度内の更新が11回に留まった。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		・学科パンフレットは計画どおり発行できた。認知度向上についての検証は、次年度以降の課題である。 【指標①学科パンフレット】 ・ブログの更新が滞る傾向にあった。学科メンバーの記事提供への更なる協力が求められる。【指標なし】
2018年度	年次計画内容	
	[2-1] 学科パンフレットの編集発行、および、公式ホームページの学部学科サイトへのお知らせ情報のアップデートをとおして、学科の理念・目的を周知させる。学科会議で実施状況を適宜確認する。	

## (6) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①「実用英語」科目の履修状況 ②「専門分野」科目の履修状況 ③進路決定状況
2017年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 今年度も引き続き、学科の目的の1つである「英語運用能力の養成」に関し、教育活動の成果との関連性を検証する。	今年度も英語運用能力の養成に関して、様々な視点から検証を行うことができた。Writingの科目については、学科会議で受講生の英語レポートを回覧し、その成果と課題について議論を行った。また Oral Communication Aについては、グループ分けの工夫や先輩学生の活躍について紹介された。また英文講読の科目について、レベル混合クラスの試みやペアワークの効果について紹介された。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		今年度も「英語運用能力の養成」に関して、複数の科目について検証を行い、教育活動と学科の教育目標に齟齬がないことを確認するとともに、具体的な教育活動について情報共有することができた。 【指標「10分FD」2017年度第5回学科会議】 【指標「10分FD」2017年度第6回学科会議】 【指標 Writing Aの報告 2017年度第9回学科会議】
2018年度	年次計画内容	
	[1-1] 今年度も引き続き、学科の目的の1つである「英語運用能力の養成」に関し、教育活動の成果との関連性を検証する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		理念・目的の認知度調査結果
2017年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 昨年度に引き続き、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査に関しては、昨年度運営会議で検討した学科独自の調査方法について、学科会議で	学科の目的、教育目標、各専門分野の教育・研究活動の関連性について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、履修要項、保護者懇談会用刊行物、ホームページ等で公開した。また、学科の目的の認知度調査として行うためのアンケートの案を作成した。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		教育目標の公開を継続して行った。また検討を続けてきた学科独自で行う学科の目的の認知度調査について案を作成した。 【指標「HP」「履修要項】】 【指標 学科の目的に関するアンケート】

1. 理念・目的

	検証する。		ト案】
2018年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 昨年度に引き続き、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査に関しては、昨年度運営会議で検討した学科独自の調査方法に基づき、試験的に実践する。		

(7) 人文学部こども発達学科

<b>中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)</b>			<b>達成度評価指標【指標1】</b>
[1-1] 現行のこども発達学科の目的を、これまでの教育活動の成果との関連性について定期的に検証し、必要に応じて対策を講じ、両者の整合性を図る。			①教育機関・保育施設等の教育・子育て支援に関わる進路の決定状況 ②教員免許・保育士資格の取得状況 ③教員養成の理念 ④教職課程履修カルテ
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] ①小学校教職課程や保育士養成カリキュラムが、現状の社会に応じた教育理念と目的にかなっているかを再確認する。 ②これまで行ってきた卒業生の進路の動向、現在の在学生数、入学者数の経年変化を今後も継続的に注視し、教育目標にあっているかを確認し続ける。 ③完成年度を迎える保育士養成カリキュラムによって育成してきた学生の将来の志望を把握し、教育目標と整合するように努める。そのために「保育実習ハンドブック」の活用を行う。 ④「教職課程履修カルテ」の活用を全学生が十分に行えるように指導し、教育活動の充実を図る。	<b>計画実施状況</b> 教職課程と保育士養成カリキュラムを学科内外の変化を捉え、教育理念の再検討をおこなった。その内容を「履修要項」に反映した。 小学校教職課程では再課程認定の作成とともに、教育理念の確認をおこなった。卒業生、特に教職に関する進路動向をより把握し、教職希望の在学生への指導や教育に反映した。「教職課程履修カルテ」の活用、ならびに「教育実習日誌」の作成指導を周知を徹底した。 保育士養成カリキュラムでは、完成年度の「養成施設等指導調査」を受けて、これまでの教育理念や就職状況を確認した。また、「保育実習ハンドブック」の活用を努めた。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 調査を 5/5 実施。整理と対策を 4/4 実施。検証と維持を 1/2 実施。 【指標「目標達成のための計画表」D1-1】 【指標「履修要項 01-1.こども発達学科教育のめざすもの」】※現物 【指標「進路希望調査」】 【指標「教員免許取得状況」】 【指標「教員採用の実績表」】 【指標「教職課程履修カルテ」】※現物 【指標「教育実習日誌」】※現物 【指標「こども発達学科の目的・目標・方針(HPより)」】 【指標「就職状況」】 【指標「保育実習ハンドブック」】※現物 【指標「再課程認定の資料」】*性格上添付せず 【指標「養成施設等指導調査」】
2018年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] ①小学校教職課程や保育士養成カリキュラムが、現状の社会に応じた教育理念と目的にかなっているかを再確認し、可能な範囲で修正の方向性を示す。 ②これまで行ってきた卒業生の進路の動向、現在の在学生数、入学者数の経年変化を今後も継続的に注視し、教育目標にあっているかを確認し続ける。 ③保育士養成カリキュラムによって育成してきた学生の将来の志望を把握し、教育目標と整合するように努める。そのために「保育実習ハンドブック」の活用を行う。 ④「教職課程履修カルテ」の活用を全学生が十分に行えるように指導し、教育活動の充実を図る。		

<b>中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)</b>			<b>達成度評価指標【指標2】</b>
[2-1] こども発達学科の理念・目的の周知効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			①進路別、学年別の履修状況 ②ホームページ更新数、閲覧数
2017年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] ①こども発達学科の理念・目的が、社会や高校に十分伝わっているか再度点検し、これまで積み上げてきた卒業生の実績をよりよく周知するよう方策を探る。 ②昨年度設立した卒業生会を通じて新規卒業生と既卒生間の情報交換を進めていく。 ③新しくなった学科のホームページを利用して、全職員が学内外に情報発信を行えるように心がける。	<b>計画実施状況</b> 卒業生のネットワークを通じてこれまで得られていなかった情報を得た。その実績や効果を学科会議で教職員で共有し、学生の就職に役立てた。 学部で新しくしたブログ形式のホームページを通じて全教職員が情報発信をした。その効果を教職員で共有した。ブログの内容を高校生や保護者、在学生の保護者へと印刷物で公開した。 学科内の学生の交流をはかるために「こども発達学科第運動会」を開催した。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 学内：調査を 3/3 実施。検証と対策を 2/2 実施。達成を 1/1 実施。 学外：調査を 3/3 実施。検証と対策を 3/4 実施。達成を 1/1 実施。 【指標「計画表」D1-2】 【指標「教員採用の実績表」】 【指標「毎月のブログのアクセス記録」】学科会議資料 【指標「2017年度版「こ発の森」通信」】 【指標「こ発体育大会概要」】 【指標「学部学科あてサイトマップ(こ発)」】
2018年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] ①こども発達学科の理念・目的を大学構成員や社会にしっかり認知できるように構成員全員が心かける。 ②大学や学科ホームページの運用方法を改善し、個人情報に留意しながら、できるだけ多くの関係者がオンラインで情報発信できるように工夫する。 ③学内の各種会議やオープンキャンパス、父母懇談会、卒業生会などとのオフライン・オフラインでの情報の発信と交換に傾注する。		

## (8) 心理学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理学科の理念・目標を維持するため適切な教育・研究活動が行われているかについて、学科教育の成果としての進路決定状況や資格取得状況を参考に臨床心理学科会議で検証する。		① 進路決定状況 ② 精神保健福祉士合格率 ③ 大学院臨床心理学研究科進学率 ④ 臨床心理士試験合格率
2017年度	年次計画内容 [1-1] 人材育成の目的のため、進路決定状況や資格取得状況を改めて検討する。	計画実施状況 就職委員課程より報告される就職状況をもとに、就職状況の把握に努めている。
2018年度		指標に基づく中期目標の達成状況 就職活動結果に大きな相違は認められない。【指標「進路決定状況」】
年次計画内容 [1-1] 前年度と同様、人材育成の目的のため、進路決定状況や資格取得状況を改めて検討する。 [1-2] 心理学部設立の理念・目的と本学の理念との対応について検討する		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 臨床心理学科の目的について、入学式での学科長挨拶と新入生ガイダンスにおいて周知し、また学科のホームページや、学科の刊行物においても掲載する。また、2014年度より学科独自に開催している、高校生向けの市民講座においてもこの目的を周知し、学外の人びとにも広く浸透するような活動を行っていく。		学生生活アンケート
2017年度	年次計画内容 [2-1] 入学式等の機会に、本学科の目的について継続して周知を行う。	計画実施状況 入学式等において、学科目的については説明している。
2018年度		指標に基づく中期目標の達成状況 学科目標については説明できている。【口頭説明のため指標なし】
年次計画内容 [2-1] 入学式等の機会に、本学科の目的について継続して周知を行う。 [2-2] 学部HPに随時、心理学部の理念・目的等に関わる情報を提示し、社会に公表して認知度を向上させる。		

## (9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] ①現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。 ②①の関連性の評価にもとづき学部の理念・目的を定期的に検証する。		①社会活動への参加状況(豊かな人間性の涵養及び人権感覚を基盤とした法的思考能力) ②法学検定試験の合格状況(法の役割と内容の教授研究) ③国際交流状況(国際感覚) ④就職状況(人材の育成)
2017年度	年次計画内容 [1-1] ①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察の非行少年立ち直りのボランティアへの参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり議員インターンシップの参加を奨励する。 ②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させる」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。 ③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。 ④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率(留年生を含む)95%に近づけるよう努める。 ⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部の目的(理念)及び教育目標が妥当であるのか点検する。	計画実施状況 [1-1] ①北海道警察の非行少年の立ち直りをサポートする jumpers のガイダンスを、北海道警察少年課の担当刑事に来ていただき開催した。多くの法学部生が登録した。また聴覚障がい学生のノートテイクのボランティアについても、ガイダンスや授業を利用して法学部生に誘導を促した。 ②法学検定試験対策の法学部の専門科目「法学スキル基礎」(2年生履修科目)を前期に開講した。専門科目「法学スキル応用」(2年生履修科目)を後期にマルチの形態で開講し、試験対策を充実させた。 ③「海外フィールドワークA」を開講し、研修旅行としてアメリカのカリフォルニア大学バークレー校およびスタンフォード大学に学生を引率した。またキャリアスキル基礎B、キャリアスキル応用Bにおいて、元高校の英語の先生2名に非常勤講師を委嘱し、英語の基礎学力を身に付けさせるための英語教育を行った。外国書講読A、外国書講読Bでは、キャリアスキル基礎B、キャリアスキル応用Bに連続させる形で、英語の学力向上を促した。来年度も同じ体制を続けることにしている。このような英語教育を通じて、学生の英語能力を向上させるとともに、海外に関心をもつよう努めた。 ④就職状況を改善するために前年度に引き続き、担任を介した就職指導を
2018年度		指標に基づく中期目標の達成状況 [1-1] ①北海道警察の大学生ボランティア jumpers には、法学部生が34名登録しており、実際には17名の学生が非行少年の立ち直りサポートに61回参加している。本学における聴覚障がい学生のためのパソコンテイク・ノートテイク、さらに通学介助を合わせ13名の学生が参加している。これらのボランティア活動への学生の参加を促すために、NPOの関係者などを講師とする法学部の専門科目「法政特殊講義A(地域活動実践論)」を前期に開講した。この授業を履修した男子学生が、女性の人権にかかわるNPOの活動に参加する事例が見られるようになった。専門科目の「地域インターンシップA」を履修することで、連動した効果が期待できる。 ②法学検定ベーシックの受験者は129名、合格者は59名で合格率は45.7%であった。法学検定スタンダードの受験者は5名、合格者は4名であった。法学検定ベーシックの合格率が昨年に比べて低下した半面、法学検定スタンダードは、受験者数が少ないながらも合格率が80%に上昇した。受験者が100名を大きく超え全国的にも多くの受験者を出す大学となるであろうことから、合格率をふたたび全国平均にまで引き上げ、これを安定させるのが、当面の目標となる。同時に法学検定スタンダードの受験者を増やしつつ、今年度の合格率を維持すれば、それは法学部の教育力の成果を示すものとなる。

1. 理念・目的

		<p>推進した。また後期の後半では、就職委員とともに学部長、学科長、教務委員長が未内定で就活が沈滞している学生に個別に連絡を取るなど指導を徹底した。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に検討した結果、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であると判断した。</p>	<p>③国際交流を促す専門科目「海外フィールドワーク B」ではアメリカのカリフォルニア大学バークレー校およびスタンフォード大学への研修旅行を実施した。これに参加した学生数は5名である。アメリカの学生との交流をすることで、国際感覚をもつような研修プログラムにした。</p> <p>④法学部の2月末現在の内定率は90.7%であり、目標値の90%以上に到達した。</p>
2018年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[1-1]</p> <p>①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察学生ボランティア（防犯、少年警察、サイバー）への参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり、海浜清掃への参加、模擬裁判および模擬選挙への参加を奨励する。</p> <p>②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させる」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。</p> <p>③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。</p> <p>④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率（留年生を含む）95%に近づけるよう努める。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であるのか点検する。</p>		

<b>中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）</b>		<b>達成度評価指標【指標2】</b>	
	[2-1]		① 刷物、HP などへの掲示実績
	①履修要項等の刊行物、ホームページ、高校へのニュースレター、掲示物、新年度の在学生向けガイダンス等の手段によって周知をはかるとともに、その効果を検証する。		
2017年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[2-1]</p> <p>①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。</p>	<p><b>計画実施状況</b></p> <p>[2-1]</p> <p>①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載した。法学部の独自ホームページで紹介している。オープンキャンパスにおいて、また法学部生対象の4月上旬のガイダンスにおいて説明した。高校へのニュースレターでも広報した。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証した。</p>	<p><b>指標に基づく中期目標の達成状況</b></p> <p>①学部の独自ホームページは2016年1月に大幅に更新したあと、随時更新している。ニュースレターは2017年5月・8月・11月、2018年2月に発行し、高校に郵送した。ニュースレターには、法学部の教育目標及び教育戦略を明示した。</p> <p>②年次計画は達成されている。その効果については、法学部生が資格取得で成果をあげている点、また法学部の受験者数が増えている点などから見て、一定の効果があると判断できる。</p>
2018年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[2-1]</p> <p>①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。</p>		

(10) 大学院法学研究科

<b>中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）</b>		<b>達成度評価指標【指標1】</b>	
	[1-1] 法学研究科は、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況、本研究科の教育・研究活動の成果との関連において、本研究科の目的・教育目標の適切性について不断に評価を行う。		①本学の理念・目的 ②本研究科の置かれた状況 ③修士学位授与率 ④修了生進路状況
2017年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[1-1] 2016年度に法学研究科運営会議レベルで法学研究科と地域社会マネジメント研究科との相互関係について検討する方向で合意したことを踏まえ、2017年度では、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況及び本研究科の教育・研究成果を考慮して、地域社会マネジメント研究科と大学院の在り方について協議していくことにする。</p>	<p><b>計画実施状況</b></p> <p>[1-1] 新たな全学的再編計画が提起される情勢にかんがみ、法学研究科として何を維持し何を改革するかを十分検討していかなければならない。地域社会マネジメント研究科でも同じく内部改革を重視したいということで現状においてはお互いの内部における教育研究を充実させていく時期であろうという認識を共有した。今後の全体的再編を見据え法学研究科としてどう対応していくか今後の課題とし、検討を進める。</p>	<p><b>指標に基づく中期目標の達成状況</b></p> <p>②については、今年度実施の入学試験における本研究科志願者は前後期合わせて15名と一定の需要水準を依然維持している。うち14名は税法志願者、1名は憲法志願者であった。なお周囲の法学研究科を有する大学院の状況によってはさらに志願者が増えるという情報もある。今後も注視していきたい。</p> <p>③修了対象者 11名中8名に修士の学位を与えた。</p> <p>④修了生 8名は全員が税理士志望であり、税理士事務所勤務中であるか勤務を予定している。</p>

2018年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 大学再編の議論が行われ、それに伴い大学院再編についても常務理事の下で地域マネジメント研究科と法学研究科の連携、あり方が模索され始めた。その中では当該研究科が当面現状の体制で研究、教育を行っていくこととなった。その際法学研究科の税理士養成機能の部分で地域マネジメント研究科と協力協同ができるかどうかについて今後とも協議していくことを確認した。その前提に立って法学研究科として税理士養成機能の充実について関係各部門に求めていく。
--------	---

<b>中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)</b>		<b>達成度評価指標【指標2】</b>
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンス等を通じた周知方法の効果を検証するとともに、必要であれば新たな周知方法を検討する。		①目的・教育目標の認知度調査結果
2017年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 2016年度に引き続き、次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②ホームページの内容の適切性について検討する。 ③学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ④年度初めのガイダンスで周知を図る。	<b>計画実施状況</b> [2-1] ①『大学院案内2018』を発行した。歴代修了生の論文題目を紙数の関係で2010年以降のものに限定した。 ②ホームページの内容は現状で妥当であると判断した。 ③学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会(学外では合計4回)を通じて周知を図った。 ④年度初めのガイダンスでも周知を図った。
<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ①特段調査はしていないが、日常的な大学院生や演習指導教員との情報交換の中で目的・教育目標の認知度は高いものであると認識している。		
2018年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 2017年度に引き続き、次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②ホームページの内容の適切性について検討する。 ③学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ④年度初めのガイダンスで周知を図る。	

**(11) 大学院臨床心理学研究科**

<b>中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)</b>		<b>達成度評価指標【指標1】</b>
[1-1] 臨床心理士に求められる資質を涵養する臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを検証し維持する。		①カリキュラム、シラバス ②臨床心理士試験合格者数 ③修了生就職先
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきたので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。	<b>計画実施状況</b> 計画に沿って遂行した。 ②は5名であった。前年度修了生の合格率は全国平均程であった。臨床心理士資格者数は累積で131名となり、研究科の目的を着実に遂行している。
<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ① 達成(添付資料) ② 達成5名(累積131名、修了生全員を母数とする比率87.3%) ③ 達成		
2018年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきたので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。一方で国家資格公認心理師法施行に伴い、臨床心理士資格がどのような位置づけになっていくか情報収集を行う。	

<b>中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)</b>		<b>達成度評価指標【指標2】</b>
[1-1] 理念・目的を刊行物、ホームページ、ガイダンスで周知し、公表する。		① 修士論文抄録集 ② WEB上修士論文タイトル ③ 心理臨床センター紀要 ④ WEB版心理臨床センター紀要(抜粋) ⑤ 学院ホームページ
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。	<b>計画実施状況</b> 計画に沿って遂行した。 Ⅰ期入試、Ⅱ期入試に関わる学内・学外説明会において説明・周知を図った。(指標④⑤は年度をまたぎ作業)
<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ① 達成(資料添付) ② 達成(研究科委員会議事録) ③ 達成(心理臨床センター運営会議) ④ 達成 ⑤ 達成		
2018年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。尚、広報会議に当該年度から参加することにより、より全学的な広報活動を行う。	

**(12) 大学院地域社会マネジメント研究科**

<b>中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)</b>		<b>達成度評価指標【指標1】</b>
[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生)
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的に沿って現在の教育・研究活動を検証する。今後の大学の学部再編の状況を見ながら、地域社会マネジメント研究科の	<b>計画実施状況</b> カリキュラムについては若干の議論があり、大学院生のアンケートも行ったが、十分な検証は行われているとはいえない。学部再編については現在検討が行われている
<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> ①大学院生の進路は研究科の目的に沿ったものである。 ②研究科で取り組んだ社会活動の参加はないが、大学院生で社会活動に参加		

1. 理念・目的

	方向性を検討する。	状況であり、今後、方向性が議論される。	している方がいる。
2018年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1] 大学院再編議論、新キャンパス移転の計画、入学者数を踏まえながら、地域社会マネジメント研究科の理念・目的の検討を開始する。		
	[1-2] 地域社会マネジメント研究科の現在の理念・目的に沿って教育・研究活動を検証する。		

<b>中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)</b>		<b>達成度評価指標【指標2】</b>
	[2-1] パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	①理念・目的の認知度調査結果
2017年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>
	[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。	パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じ、周知させた。
		<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
		認知度調査は行わなかったがガイダンスなどを通じ周知している。
2018年度	<b>年次計画内容</b>	
	[2-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンス、講演、アンケート調査を通じて周知させる。	